

デジタル田園都市国家構想交付金 効果検証シート

事業執行年度		令和5年度				
事業名	シティプロモーション事業					
目的	デジタル上のプラットフォームを用いて、地域外に存在する多種多様な人材のニーズ個々にあったプロモーションを行っていくことで、「オン・オフのまち吉野」等のブランディングを図るとともに、観光やワーケーションなど複数のアプローチから、地域住民との交流及び担い手不足解消へと繋がる施策を促進する。					
	【事業概要】 LINE上のプラットフォームを利用している委託業者の約376万人の会員に、アンケートを送付し、吉野町の認知拡大やリサーチを実施。 アンケートを実施し、セグメンテーションを行う。得られたセグメント毎にプロモーションの発信内容を変更し、イベントを企画・運営。 住民との交流機会を設け、地域の担い手・関係人口として継続して関わり続けてもらえるように事業展開する。					
事業概要	令和5年度	当初計画額	8,825,000円	実績額	8,825,000円	
		アンケート形式で、今後プロモーションを行っていくターゲット選定のためのセグメンテーションを行う。セグメント毎のニーズ把握。仮設に基づいたDCAP。				
	令和6年度	当初計画額	2,400,000円	実績額	－	
		(予定) 個別ニーズに合った既存イベントの紹介、新規イベント開催に向けたイベント紹介等を実施し、主体的な参加の仕組化を行い、ゆるやかなコミュニティ形成を実施。住民と地域外の人々が繋がる状態を目指す。				
	令和7年度	当初計画額	2,600,000円	実績額	－	
		(予定) Slack等を使って、自由に企画へ参加することが出来るようなコミュニティを立ち上げ、継続的に住民と関係人口が関わりながら事業化を目指すコミュニティの立ち上げ。				

本事業における重要業績評価指標（KPI）と実績

重要業績評価指標（KPI）		令和5年度	令和6年度	令和7年度
		目標値	目標値	目標値
		実績値	実績値	実績値
①	プラットフォーム内での発信数	250,000通	100,000通	100,000通
		273,773通	－	－
②	プロモーションの開封率（CTR）	30%	30%	30%
		43.32%	－	－
③	プロモーションの反応率（CVR）	7%	10%	15%
		6.9%	－	－
④	「担い手創出イベント」参加人数	21人	42人	66人
		22人	－	－
⑤	「担い手創出イベント」実施数	3件	6件	10件
		3件	－	－

本事業の総括（総合評価・今後の展望等）

「吉野町」の非認知層へのアプローチは一定出来た。また、イベントの実施や参加も目標を達成することができた。イベントの参加者とは、継続して情報交換等が出来ており、令和6年度も継続して吉野町との関わりを持っている。
しかし、事業本来の目的である地域の担い手不足の解消・関係人口の創出にはまだ繋がっていない。ただし、今年度・次年度と事業を継続実施することにより、地域住民との交流を深め、地域の担い手や関係人口として継続して吉野町に関わってもらえるような企画を実施していく。

外部有識者からの意見

- ・関係人口創出や地域の担い手不足解消という事業の目的達成のためには、もっとイベントの周知等が必要ではないか。
- ・現時点で、3年間の事業計画になっているが、あと1年半で目的達成できるか少し疑問に思う。
- ・費用対効果がどれくらいあるのか。
- ・3年間の事業計画終了後も、事業を継続実施し、地域の担い手不足解消に繋げてもらいたい。